

# 公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2014年度

東京大学大学院医学系研究科



# 目 次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1. 修了要件	1
	2. 履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2
3. 時間割		3
4. 履修モデル		4～7
	「公衆衛生行政・管理」	4
	「保健アナリスト・コーディネーター」	5
	「臨床疫学・アウトカム評価」	6
	「医療情報・臨床工学」	7
5. シラバス		8～46
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		47
7. 公共政策大学院との合併科目について		48～50

日程	
S P Hガイダンス	4月 2日 (水)
入進学者ガイダンス	4月 7日 (月)
大学院入学式	4月11日 (金)
夏学期	4月 4日 (金) ~ 8月1日 (金)
	前 半： 4月 4日 (金) ~ 5月30日 (金)
	後 半： 6月 2日 (月) ~ 8月1日 (金)
定期健康診断	新入生： 5月27日 (火) ~ 6月5日 (木)
	在学生： 4月23日 (水) ~ 5月26日 (月)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬~下旬
	希望調書提出 : 7月上旬~中旬
夏季休業期間	8月 4日 (月) ~ 9月30日 (火)
冬学期	10月 1日 (水) ~ 2月 6日 (金)
	前 半：10月 1日 (水) ~ 11月21日 (金)
	後 半：11月25日 (火) ~ 12月22日 (月) 1月 5日 (月) ~ 2月 6日 (金)
S P H課題研究論文	題目届提出期限：11月28日 (金)
	論文提出期限：12月19日 (金)
	発 表 会： 1月9日 (金)
学位記授与式	3月23日 (月) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 40 ~ 10 : 10
	2 時 限	10 : 30 ~ 12 : 00
	3 時 限	13 : 00 ~ 14 : 30
	4 時 限	14 : 50 ~ 16 : 20
	5 時 限	16 : 40 ~ 18 : 10
	6 時 限	18 : 30 ~ 20 : 00

# 1. 授業科目の履修について

## 1. 修了要件

コ ー ス		1年コース	2年コース																																												
標準修業年限		1 年	2 年																																												
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上																																													
修了要件	必修	①A：2科目+B：4科目の計6科目11単位を履修 A：必須2科目 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41418113</td> <td>医学データの統計解析</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418322</td> <td>環境健康医学</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> B：下記の4つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計4科目(各分類1科目以上、計4科目以上履修も可) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>41418111</td> <td>疫学研究と実践</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418115</td> <td>医学研究のデザイン</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>41418211</td> <td>精神保健学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418213</td> <td>健康教育学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3</td> <td>41418218</td> <td>医療倫理学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418220</td> <td>社会と健康 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418316</td> <td>法医学・医事法学 *休講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>41418311</td> <td>健康医療政策学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41418312</td> <td>医療情報システム学</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		科目番号	科目名	単位	41418113	医学データの統計解析	2	41418322	環境健康医学	1	分類	科目番号	科目名	単位	1	41418111	疫学研究と実践	2	41418115	医学研究のデザイン	2	2	41418211	精神保健学 I	2	41418213	健康教育学	2	3	41418218	医療倫理学 I	2	41418220	社会と健康 I	2	41418316	法医学・医事法学 *休講	2	4	41418311	健康医療政策学	2	41418312	医療情報システム学	2
		科目番号	科目名	単位																																											
41418113	医学データの統計解析	2																																													
41418322	環境健康医学	1																																													
分類	科目番号	科目名	単位																																												
1	41418111	疫学研究と実践	2																																												
	41418115	医学研究のデザイン	2																																												
2	41418211	精神保健学 I	2																																												
	41418213	健康教育学	2																																												
3	41418218	医療倫理学 I	2																																												
	41418220	社会と健康 I	2																																												
	41418316	法医学・医事法学 *休講	2																																												
4	41418311	健康医療政策学	2																																												
	41418312	医療情報システム学	2																																												
		② 課題研究 (6単位) (2年次に履修申請すること)																																													
	選択科目	①選択科目(1年コースの課題研究は選択科目扱い) ②他専攻・他研究科(特に公共政策大学院)科目(8単位まで)																																													

注意事項 1学期間に25単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目は夏学期の履修単位として算入されます。(ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、冬学期の履修単位として算入されます。)

## 2. 履修手続き

### (1) 履修登録手続き

4月18日(金)までに学務システム(通称:UT-mate)上で履修登録手続きを行ってください。

<https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus>

### (2) 冬学期科目の履修追加・修正登録手続き(10月1日(水)~20日(月))

希望者は(1)同様、学務システム(通称:UT-mate)上で手続きを行ってください。

## 2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	学期	曜日	時限等	担当教員	開始日
8	41418111	疫学研究と実践	2	夏	金	2	佐々木 敏 教授	4/4
9	41418112	予防保健の実践と評価	2	夏休		2~4	佐々木 敏 教授	8/4
10	41418113	医学データの統計解析	2	夏前	木	3・4	松山 裕 教授	4/10
11	41418114	医学統計学演習	2	夏後	木	3・4	松山 裕 教授	6/5
12	41418115	医学研究のデザイン	2	冬前	火	3・4	松山 裕 教授	10/7
13	41418116	臨床疫学	2	夏後	水	1・2	康永 秀生 教授	6/4
14	41418117	臨床疫学・経済学演習	2	冬	木	3・4	康永 秀生 教授	10/2
15	41418118	保健医療経済学	2	夏前	水	1・2	康永 秀生 教授	4/9
16	41418120	医療コミュニケーション学	2	夏前	火	3・4	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	4/8
18	41418122	医療コミュニケーション学演習	2	夏後	水	3・4	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	6/4
19	41418124	医療技術評価学演習	1	夏休	集中		康永 秀生 教授	9/1
20	41418125	医療経営学演習	2	冬	水	4・5	橋本 英樹 教授 康永 秀生 教授 小池 創一 特任教授 大江 和彦 教授	10/1
21	41418126	臨床医学概論	1	夏前	木	2	康永 秀生 教授	4/10
22	41418127	医学研究とCDISC標準	1	冬前	水	3	木内 貴弘 教授 石川 ひろの 准教授	10/8
24	41418211	精神保健学Ⅰ	2	夏	火	5	川上 憲人 教授	4/8
25	41418212	精神保健学Ⅱ	2	冬	火	5	島津 明人 准教授 川上 憲人 教授	10/7
26	41418213	健康教育学	2	冬後	金	1・2	橋本 英樹 教授	11/28
27	41418214	健康社会学	2	冬前	金	1・2	橋本 英樹 教授	10/3
28	41418217	健康増進科学	2	夏後	火	3・4	李 廷秀 准教授	6/3
29	41418218	医療倫理学Ⅰ	2	夏前	木	5・6	瀧本 禎之 准教授	4/10
30	41418219	医療倫理学Ⅱ	2	夏後	木	5・6	瀧本 禎之 准教授	6/5
31	41418220	社会と健康Ⅰ	2	冬前	木	1・2	近藤 尚己 准教授 橋本 英樹 教授 川上 憲人 教授	10/2
32	41418221	社会と健康Ⅱ	2	冬後	金	3・4	近藤 尚己 准教授	12/5
33	41418222	産業保健の理論と実践	2	冬前	水	1・2	川上 憲人 教授 大久保 靖司 教授	10/8
34	41418311	健康医療政策学	2	冬	月	5	小林 廉毅 教授 豊川 智之 准教授	10/6
35	41418312	医療情報システム学	2	夏前	金	3・4	大江 和彦 教授	4/18
36	41418313	医療情報システム学実習	1	冬前	火	1・2	大江 和彦 教授	10/7
	41418317	法医学・医事法学演習	2	冬	未定	未定	未定	未定
37	41418318	医療安全管理学	1	夏前	水	3・4	児玉 安司 特任教授	4/16
38	41418319	医療安全管理学実習*	0.5	夏休	集中	1~6	児玉 安司 特任教授	9/29
39	41418320	健康危機管理学	1	夏後	木	1・2	小林 廉毅 教授	6/5
40	41418321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏休	集中		小林 廉毅 教授	
41	41418322	環境健康医学	1	冬前	月	2	遠山 千春 教授	10/6
42	41418323	公共健康情報学	2	夏後	火	1・2	小山 博史 教授	6/3
43	41418324	公共健康情報学実習	1	冬前	金	3・4	小山 博史 教授	10/3
44	41418411	インターンシップ	2				川上 憲人 教授	
45	41418412	公共健康医学特論	2	夏	月	4	各教員	4/14
46	41418511	課題研究	6	通年			各指導教員	

\* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻（SPH）講義室

\* 「法医学・医事法学」は休講とする。

\* 「法医学・医事法学演習」は開講未定。

### 3. 時間割(平成26年度)

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週			
		4/4～5/23	6/2～7/25	10/1～11/21	11/25～12/22, 1/5～1/30			
		予備: 5/26～5/30	予備: 7/28～8/1		予備: 2/2～6			
月	1	8:40 10:10				1	月	
	2	10:30 12:00		41418322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30				3		
	4	14:50 16:20	41418412-公共健康医学特論			4		
	5	16:40 18:10			41418311-健康医療政策学*4	5		
	6	18:30 20:00				6		
火	1	8:40 10:10		41418323-公共健康情報学	41418313-医療情報システム学実習	1	火	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418120-医療コミュニケーション学	41418217-健康増進科学	41418115-医学研究のデザイン*1	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418211-精神保健学 I *2		41418212-精神保健学 II	5		
	6	18:30 20:00				6		
水	1	8:40 10:10	41418118-保健医療経済学	41418116-臨床疫学	41418222-産業保健の理論と実践	1	水	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418318-医療安全管理学	41418121-医療コミュニケーション学演習	41418127-医学研究とCDISC標準	3		
	4	14:50 16:20			41418125-医療経営学演習	4		
	5	16:40 18:10				5		
	6	18:30 20:00				6		
木	1	8:40 10:10		41418320-健康危機管理学	41418220-社会と健康 I *3	1	木	
	2	10:30 12:00	41418126-臨床医学概論			2		
	3	13:00 14:30	41418113-医学データの統計解析	41418114-医学統計学演習	41418117-臨床疫学・経済学演習	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418218-医療倫理学 I *3	41418219-医療倫理学 II		5		
	6	18:30 20:00				6		
金	1	8:40 10:10			41418214-健康社会学	41418213-健康教育学*2	1	金
	2	10:30 12:00	41418111-疫学研究と実践*1			2		
	3	13:00 14:30	41418312-医療情報システム学*4 (6/20まで開講)		41418324-公共健康情報学実習	4141822-社会と健康 II	3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	
夏季休業期間	8月	第2週	41418112-予防保健の実践と評価(8/4～8)					
	9月	第2週	41418124-医療技術評価学演習(9/1～3)					
		第2～3週	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)					
		第5週	41418319-医療安全管理学実習(9/29～30)					

#### 4. 履修モデル

##### 履修モデル「公衆衛生行政・管理」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週			
		4/4～5/23	6/2～7/25	10/1～11/21	11/25～12/22, 1/5～1/30			
		予備: 5/26～5/30	予備: 7/28～8/1		予備: 2/2～6			
月	1	8:40 10:10				1	月	
	2	10:30 12:00		41418322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30				3		
	4	14:50 16:20	41418412-公共健康医学特論			4		
	5	16:40 18:10			41418311-健康医療政策学*4	5		
	6	18:30 20:00				6		
火	1	8:40 10:10		41418323-公共健康情報学	41418313-医療情報システム学実習	1	火	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418120-医療コミュニケーション学	41418217-健康増進科学	41418115-医学研究のデザイン*1	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418211-精神保健学 I *2		41418212-精神保健学 II	5		
	6	18:30 20:00				6		
水	1	8:40 10:10	41418118-保健医療経済学	41418116-臨床疫学	41418222-産業保健の理論と実践	1	水	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418318-医療安全管理学	41418121-医療コミュニケーション学演習	41418127-医学研究とCDISC標準	3		
	4	14:50 16:20			41418125-医療経営学演習	4		
	5	16:40 18:10				5		
	6	18:30 20:00				6		
木	1	8:40 10:10		41418320-健康危機管理学	41418220-社会と健康 I *3	1	木	
	2	10:30 12:00	41418126-臨床医学概論			2		
	3	13:00 14:30	41418113-医学データの統計解析	41418114-医学統計学演習	41418117-臨床疫学・経済学演習	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418218-医療倫理学 I *3	41418219-医療倫理学 II		5		
	6	18:30 20:00				6		
金	1	8:40 10:10			41418214-健康社会学	41418213-健康教育学*2	1	金
	2	10:30 12:00	41418111-疫学研究と実践*1			2		
	3	13:00 14:30	41418312-医療情報システム学*4		41418324-公共健康情報学実習	4141822-社会と健康 II	3	
	4	14:50 16:20	(6/20まで開講)				4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	
夏季休業期間	8月	第2週	41418112-予防保健の実践と評価(8/4～8)					
	9月	第2週	41418124-医療技術評価学演習(9/1～3)					
		第2～3週	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)					
		第5週	41418319-医療安全管理学実習(9/29～30)					



履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週			
		4/4～5/23	6/2～7/25	10/1～11/21	11/25～12/22, 1/5～1/30			
		予備: 5/26～5/30	予備: 7/28～8/1		予備: 2/2～6			
月	1	8:40 10:10				1	月	
	2	10:30 12:00		41418322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30				3		
	4	14:50 16:20	41418412-公共健康医学特論			4		
	5	16:40 18:10			41418311-健康医療政策学*4	5		
	6	18:30 20:00				6		
火	1	8:40 10:10		41418323-公共健康情報学	41418313-医療情報システム学実習	1	火	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418120-医療コミュニケーション学	41418217-健康増進科学	41418115-医学研究のデザイン*1			3
	4	14:50 16:20						4
	5	16:40 18:10	41418211-精神保健学 I *2		41418212-精神保健学 II			5
	6	18:30 20:00						6
水	1	8:40 10:10	41418118-保健医療経済学	41418116-臨床疫学	41418222-産業保健の理論と実践	1	水	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418318-医療安全管理学	41418121-医療コミュニケーション学演習	41418127-医学研究とCDISC標準			3
	4	14:50 16:20			41418125-医療経営学演習			4
	5	16:40 18:10						5
	6	18:30 20:00						6
木	1	8:40 10:10		41418320-健康危機管理学	41418220-社会と健康 I *3	1	木	
	2	10:30 12:00	41418126-臨床医学概論			2		
	3	13:00 14:30	41418113-医学データの統計解析	41418114-医学統計学演習	41418117-臨床疫学・経済学演習			3
	4	14:50 16:20						4
	5	16:40 18:10	41418218-医療倫理学 I *3	41418219-医療倫理学 II				5
	6	18:30 20:00						6
金	1	8:40 10:10			41418214-健康社会学	41418213-健康教育学*2	1	
	2	10:30 12:00	41418111-疫学研究と実践*1				2	
	3	13:00 14:30	41418312-医療情報システム学*4		41418324-公共健康情報学実習	4141822-社会と健康 II	3	
	4	14:50 16:20	(6/20まで開講)				4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	

夏季休業期間	8月	第2週	41418112-予防保健の実践と評価(8/4～8)
	9月	第2週	41418124-医療技術評価学演習(9/1～3)
		第2～3週	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41418319-医療安全管理学実習(9/29～30)

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週			
		4/4～5/23	6/2～7/25	10/1～11/21	11/25～12/22, 1/5～1/30			
		予備: 5/26～5/30	予備: 7/28～8/1		予備: 2/2～6			
月	1	8:40 10:10				1	月	
	2	10:30 12:00		41418322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30				3		
	4	14:50 16:20	41418412-公共健康医学特論			4		
	5	16:40 18:10			41418311-健康医療政策学*4	5		
	6	18:30 20:00				6		
火	1	8:40 10:10		41418323-公共健康情報学	41418313-医療情報システム学実習	1	火	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418120-医療コミュニケーション学	41418217-健康増進科学	41418115-医学研究のデザイン*1			3
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418211-精神保健学 I *2		41418212-精神保健学 II			5
	6	18:30 20:00						6
水	1	8:40 10:10	41418118-保健医療経済学	41418116-臨床疫学	41418222-産業保健の理論と実践	1	水	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418318-医療安全管理学	41418121-医療コミュニケーション学演習	41418127-医学研究とCDISC標準			3
	4	14:50 16:20			41418125-医療経営学演習			4
	5	16:40 18:10						5
	6	18:30 20:00						6
木	1	8:40 10:10		41418320-健康危機管理学	41418220-社会と健康 I *3	1	木	
	2	10:30 12:00	41418126-臨床医学概論*			2		
	3	13:00 14:30	41418113-医学データの統計解析	41418114-医学統計学演習	41418117-臨床疫学・経済学演習			3
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418218-医療倫理学 I *3	41418219-医療倫理学 II				5
	6	18:30 20:00						6
金	1	8:40 10:10			41418214-健康社会学	41418213-健康教育学*2	1	
	2	10:30 12:00	41418111-疫学研究と実践*1			2		
	3	13:00 14:30	41418312-医療情報システム学*4 (6/20まで開講)		41418324-公共健康情報学実習	4141822-社会と健康 II	3	
	4	14:50 16:20					4	
	5	16:40 18:10					5	
	6	18:30 20:00					6	

夏季休業期間	8月	第2週	41418112-予防保健の実践と評価(8/4～8)
	9月	第2週	41418124-医療技術評価学演習(9/1～3)
		第2～3週	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41418319-医療安全管理学実習(9/29～30)

\*臨床医学に関する知識が十分でない場合に受講を勧める。

履修モデル「医療情報・臨床工学」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週	後半8週	前半8週	後半8週			
		4/4～5/23	6/2～7/25	10/1～11/21	11/25～12/22, 1/5～1/30			
		予備: 5/26～5/30	予備: 7/28～8/1		予備: 2/2～6			
月	1	8:40 10:10				1	月	
	2	10:30 12:00		41418322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30				3		
	4	14:50 16:20	41418412-公共健康医学特論			4		
	5	16:40 18:10			41418311-健康医療政策学*4	5		
	6	18:30 20:00				6		
火	1	8:40 10:10		41418323-公共健康情報学	41418313-医療情報システム学実習	1	火	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418120-医療コミュニケーション学	41418217-健康増進科学	41418115-医学研究のデザイン*1	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418211-精神保健学 I *2		41418212-精神保健学 II	5		
	6	18:30 20:00				6		
水	1	8:40 10:10	41418118-保健医療経済学	41418116-臨床疫学	41418222-産業保健の理論と実践	1	水	
	2	10:30 12:00				2		
	3	13:00 14:30	41418318-医療安全管理学	41418121-医療コミュニケーション学演習	41418127-医学研究とCDISC標準	3		
	4	14:50 16:20			41418125-医療経営学演習	4		
	5	16:40 18:10				5		
	6	18:30 20:00				6		
木	1	8:40 10:10		41418320-健康危機管理学	41418220-社会と健康 I *3	1	木	
	2	10:30 12:00	41418126-臨床医学概論*			2		
	3	13:00 14:30	41418113-医学データの統計解析	41418114-医学統計学演習	41418117-臨床疫学・経済学演習	3		
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10	41418218-医療倫理学 I *3	41418219-医療倫理学 II		5		
	6	18:30 20:00				6		
金	1	8:40 10:10			41418214-健康社会学	41418213-健康教育学*2	1	金
	2	10:30 12:00	41418111-疫学研究と実践*1			2		
	3	13:00 14:30	41418312-医療情報システム学*4 (6/20まで開講)		41418324-公共健康情報学実習	4141822-社会と健康 II	3	
	4	14:50 16:20				4		
	5	16:40 18:10				5		
	6	18:30 20:00				6		
夏季休業期間	8月	第2週	41418112-予防保健の実践と評価(8/4～8)					
	9月	第2週	41418124-医療技術評価学演習(9/1～3)					
		第2～3週	41418321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)					
		第5週	41418319-医療安全管理学実習(9/29～30)					

\*臨床医学に関する知識が十分でない場合に受講を勧める。

## 5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践 [科目番号：41418111]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	<p>地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。</p> <p>主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究デザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や予防活動への研究成果の利用方法、その他。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。</li> <li>・テーマ毎に資料が配布される。</li> <li>・5 回目から 14 回目までは毎回講義後に小レポートが課される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4/11 予防保健と疫学（序論）</li> <li>2) 4/18 予防保健と疫学（歴史と役割）</li> <li>3) 4/25 記述疫学の目的と方法</li> <li>4) 5/2 生態学的研究の目的と方法</li> <li>5) 5/9 横断研究の目的と方法</li> <li>6) 5/16 測定誤差とその具体的な対策（1）</li> <li>7) 5/23 測定誤差とその具体的な対策（2）</li> <li>8) 5/30 症例対照研究の目的と方法</li> <li>9) 6/6 コホート研究の目的と方法</li> <li>10) 6/13 介入研究の目的と方法（1）</li> <li>11) 6/20 介入研究の目的と方法（2）</li> <li>12) 6/27 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（1）</li> <li>13) 7/4 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（2）</li> <li>14) 7/11 疫学研究の保健活動への活用</li> <li>15) 7/18 まとめ</li> </ol> <p>（追記）第 5 回目以後は小レポートの発表が随時加わる。</p>		
教科書・参考書等	（参考書）わかりやすい EBN と栄養疫学. 佐々木敏/著（同文書院）		
成績評価の方法	出席（配点：およそ 4 割）、小レポート（同：およそ 4 割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ 2 割）を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	<p>「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。</p> <p>「医学データの統計解析」、「健康教育学」と関連する。</p>		

科 目 名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41418112]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	8月4～8日の2～4時限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回1テーマを選んで講義並びに討論(講師との質疑応答)を行う。</li> <li>・テーマごとに資料が配布される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 8/4 実生活・実社会の中で行う介入試験： 実生活・実社会の中で行う介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて沖縄における食事介入研究を例として学ぶ。</li> <li>2) 8/5 公衆衛生行政における疫学研究の意味と役割： 公衆衛生行政の視点から、疫学研究や保健分野の調査・研究のあり方とその課題、その技術について学ぶ。</li> <li>3) 8/6 地域で行う大規模観察研究： わが国における代表的なコホート研究である久山町研究を例に、研究の意義、その歴史と実際、求められる技術などについて学ぶ。</li> <li>4) 8/7 職域などで行う生活習慣改善活動とその評価法： 職員の生活習慣改善プログラムを例に、現場との連携の重要性やその技術、評価法などを中心に学ぶ。</li> <li>5) 8/8 科学としての予防保健・保健実践活動： その理論、技術、注意点について実例を交えながら紹介する(まとめ)。</li> </ol> <p>最終回を除き、すべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義、外来講師(実践者・研究者)による講義、外来講師を交えた討論を行う。</p> <p>(注意)期日と内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教官宛に事前確認をされたい。</p>		
教科書・参考書等	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	講義への出席(配点:およそ4割)ならびに講義内での討論の内容(質問と発言)(配点:およそ6割)を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。 「医学データの統計解析」「健康教育学」、「健康医療政策学」と関連する。		

科目名	医学データの統計解析 [科目番号：41418113]		
学期	夏学期前半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	松山 裕		
授業の目的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、实例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマごとに資料が配布される。適宜、参考書を用いた解説を加える。</li> <li>・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月10日 医学研究における統計学の活用</p> <p>4月17日 治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間</p> <p>4月24日 2群の比較</p> <p>5月1日 層別解析・ロジスティック回帰</p> <p>5月8日 分散分析入門・相関と回帰</p> <p>5月15日 生存時間解析</p> <p>5月22日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計</p> <p>5月29日 評価尺度の信頼性と妥当性</p> <p>期末試験の日時は未定 (例年は8月初め)</p>		
教科書・参考書等	<p>初級者向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> <li>・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> </ul> <p>中級者以上向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社)</li> <li>・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社</li> </ul>		
成績評価の方法	期末試験 (70%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (20%) で評価する。		
他の授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「医学統計学演習」履修のための基礎となる。</li> <li>・ 「疫学研究の実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」と関連する。</li> <li>・ 初級者は健康総合科学科3年生に対する講義「疫学・生物統計学 (水曜日: 13:00-16:20)」の履修も勧める。</li> </ul>		

科目名	医学統計学演習 [科目番号：41418114]		
学期	夏学期後半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	松山 裕、柴田大朗 (非常勤)		
授業の目的	<p>前半は、「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。</p> <p>後半、実際の新医薬品申請資料をグループ内で検討することで、統計解析計画書・報告書の作成実習を行い、その成果に対して討論 (ディベート) を通じて理解を深める。</p>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初に JMP の使用についての演習を行う。</li> <li>前半は各テーマについて簡単なインストラクションを行い、ついで実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。</li> <li>後半では、統計解析計画書・報告書を作成し、その評価を相互に行う。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月5日           JMP 入門</p> <p>6月12日          2群の比較</p> <p>6月19日          相関と回帰、分散分析</p> <p>6月26日          分割表の解析とロジスティック回帰</p> <p>7月3日           生存時間解析</p> <p>7月10日          医薬品審査の概要と実際 (後半は医薬品審査実習)</p> <p>7月17日          医薬品審査実習</p> <p>7月24日          発表会</p>		
教科書・参考書等	<p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「医学データの統計解析」と同様</li> <li>SAS によるデータ解析入門 (東大出版会)</li> <li>SAS による実験データの解析 (東大出版会)</li> <li>生存時間解析：SAS による生物統計 (東大出版会)</li> </ul>		
成績評価の方法	出席 (50%) とレポート (50%) で合・否判定する。		
他の授業との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>「医学データの統計解析」履修を条件とする。</li> <li>「医学研究のデザイン」と関連する。</li> </ul>		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：41418115]		
学 期	冬学期前半	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4時限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	松山 裕、非常勤講師		
授 業 の 目 的	<p>疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義とともに、事例研究（ケーススタディ）を行う。プロトコル・シノプスを作成する演習を行い、その結果を討論により検討する。</p> <p>主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回テーマ毎に講義を行い、宿題（小レポート）を課す。</li> <li>・ プロトコルシノプス作成演習課題を11月初めに提示する。グループにて作成し最終日に報告する。これを題材に討議を行う。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>10/07 研究デザインの分類と特徴 測定の信頼性と標準化</p> <p>10/14 臨床試験のデザインとプロトコル作成 CONSORTによる論文チェック</p> <p>10/21 疫学研究のデザインとプロトコル作成 STROBEによる論文チェック</p> <p>10/28 データマネージメントと品質管理 研究組織と運営</p> <p>11/04 薬剤疫学研究のデザイン</p> <p>11/11 研究計画書作成演習</p> <p>11/18 演習報告会</p>		
教科書・参考書等	<p>講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。</p> <p>Hulley et al. (著) 木原・木原訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009.</p>		
成績評価の方法	出席（50%）、レポート・演習報告（50%）で評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「臨床疫学」と関連する。		



科 目 名	臨床疫学 [科目番号：41418116]		
学 期	夏学期後半	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜1・2時限(8週)		
場 所	医学部・教育研究棟13階SPH講義室		
担 当 教 員	康永秀生 山崎力(東京大学医学部附属病院・臨床試験センター) 吉村典子(東京大学医学部附属病院・関節疾患総合研究講座) 堀口裕正(国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部) 重岡仁(サイモン・フレイザー大学経済学部)		
授 業 の 目 的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授 業 の 方 法	事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6月4日1限) 臨床疫学の基礎知識1(康永) 2) (6月4日2限) 臨床疫学の基礎知識2(康永) 3) (6月11日1限) 健診・検診(康永) 4) (6月11日2限) 臨床診断(康永) 5) (6月18日1限) リスク・予後(康永) 6) (6月18日2限) QOL評価(康永) 7) (6月25日1限) 症例対照研究/コホート研究の理論(康永) 8) (6月25日2限) コホート研究の実際(吉村) 9) (7月2日1限) 回帰分析の注意点(康永) 10) (7月2日2限) 傾向スコア分析(propensity score analysis)(康永) 11) (7月9日1限) 操作変数法(instrumental variable method)(康永) 12) (7月9日2限) 回帰分断デザイン(regression discontinuity)、 差の差の検定(difference in difference test)(重岡) 13) (7月16日1限) 大規模データベースによる臨床疫学研究(康永/堀口) 14) (7月16日2限) 研究者主導臨床試験入門(山崎) 15) (7月23日1限) 医療の質研究(康永) 16) (7月23日2限) レポート発表会		
教科書・参考書等	Fletcher RW, Fletcher SW. Clinical Epidemiology; The Essentials. Fifth Edition. Lippincott, Williams & Wilkins. 2012		
成績評価の方法	出席点50点、レポート50点		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などに関連する。「臨床疫学・経済学演習」と強く関連する。 <u>非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、夏学期前半の「臨床医学概論」の履修を強く推奨する。</u>		

科目名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号：41418117]			
学期	冬学期通期	単位数	2単位	
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限 (16週)			
場所	医学部・教育研究棟13階SPH講義室			
担当教員	康永秀生			
授業の目的	<p>学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究のproposal writing（研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、研究費の予算書作成など）ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。</p> <p><u>10名程度まで受け入れ可</u>（科研費申請や論文執筆の経験の有無は問わない）</p>			
授業の方法	原則として、3限は講義と論文の書き方演習、4限は和文の科研費申請書(文部科学研究・基盤Cまたは若手Bのフォーマットに従う)作成の個別指導。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)		3限	4限	
	1	10/2	オリエンテーション	個別指導
	2	10/9	科研費の概略	個別指導
	3	10/16	科研費申請書の書き方	個別指導
	4	10/23	研究計画の口頭説明	個別指導
	5	10/30	医学論文を書くための準備	個別指導
	6	11/6	Titleの書き方	個別指導
	7	11/13	Abstractの書き方	個別指導
	8	11/20	Introductionの書き方	個別指導
	9	11/27	Methods, Resultsの書き方	個別指導
	10	12/4	Discussionの書き方(1)	個別指導
	11	12/11	Discussionの書き方(2)	個別指導
	12	12/18	研究計画の中間発表	
	13	1/8	論文投稿から掲載まで	個別指導
	14	1/15	査読コメントの書き方(1)	個別指導
	15	1/22	査読コメントの書き方(2)	個別指導
	16	1/29	研究計画書の審査	
	<p>※講義・演習の順番は変更となることがある。</p> <p>※各自ノートパソコンを持参すること。</p>			
教科書・参考書等	なし			
成績評価の方法	出席50%、最終的に提出される研究計画書50%により評価する。			
他の授業との関連	<u>受講希望者が10名を超える場合は、夏学期後半の「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。</u>			

科目名	保健医療経済学 [科目番号：41418118]		
学期	夏学期前半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜・1-2時限 (8週)		
場所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	康永秀生 泉田信行 (国立社会保障・人口問題研究所) 後藤励 (京都大学大学院経済学研究科)		
授業の目的	1. 医療経済学の成書に沿って、医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 実証的な医療経済学分析の方法論について基本を学ぶ。 3. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。		
授業の方法	講義、ディスカッション、レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 医療経済学の基礎1 (康永) (4月9日 1限) 2) 医療経済学の基礎2 (康永) (4月9日 2限) 3) 保険の理論 (康永) (4月16日 1限) 4) 医療サービスの生産効率性 (康永) (4月16日 2限) 5) 医療サービス市場における競争・規制 (康永) (4月23日 1限) 6) 供給者誘発需要仮説 (康永) (4月23日 2限) 7) 健康資本のグロスマン・モデル (泉田) (4月30日 1限) 8) 医療従事者の労働市場 (泉田) (4月30日 2限) 9) 費用効果分析/費用便益分析 (康永) (5月7日 1限) 10) 保健行動経済学 (後藤) (5月7日 2限) 11) 比較制度論 (康永) (5月14日 1限) 12) 医療経済学と医療政策1 (康永) (5月14日 2限) 13) 医療経済学と医療政策2 (康永) (5月21日 1限) 14) 医療経済学と医療政策3 (康永) (5月21日 2限) ※各講義の順番は変更することがある ※5月28日は予備日		
教科書・参考書等	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席50%、レポート50%		
他の授業との関連	「医療技術評価学演習」、「健康医療政策学」などに関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41418120]		
学 期	夏学期（前半）	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜 3、4 時限		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘、石川ひろの		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。</p> <p>医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、医療従事者間、医療従事者と患者市民間、患者市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割が増大している。</p> <p>本講義では、個人あるいは社会としての最適な健康上のアウトカムを得るために、医学・医療に関する知識・情報を、正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要な、(1)コミュニケーションの理論体系、(2)コミュニケーションの実務的方法論、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、医療コミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う（具体的な内容は下記の「授業計画及び内容」を参照のこと）。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回原則1テーマの講義を行う（2回で1テーマの講義もある）。</li> <li>テーマに基づいた追加資料の配布や実例の紹介を行うことがある。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	日時	内容	担当
	4月8日(火) 13:00-14:30	<b>I. 医療コミュニケーション学総論</b> 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘
	4月8日(火) 14:50-16:20	<b>II. 対人コミュニケーション</b> カウンセリング入門	久田満 (上智大学)
	4月15日(火) 13:00-14:30	<b>II. 対人コミュニケーション</b> 患者市民の立場からみた医療者との関係	山口育子 (COML)
	4月15日(火) 14:50-16:20	<b>II. 対人コミュニケーション</b> 患者市民の立場からみた医療者との関係	山口育子 (COML)
	4月22日(火) 13:00-14:30	<b>II. 対人コミュニケーション</b> 個人の行動変容を促すコミュニケーション	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
	4月22日(火) 14:50-16:20	<b>II. 対人コミュニケーション</b> 集団の行動変容を促すコミュニケーション	石川善樹 (株式会社キャンサースキャン)
	5月13日(火) 13:00-14:30	<b>I. 医療コミュニケーション学総論</b> 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの
	5月13日(火) 14:50-16:20	<b>II. 対人コミュニケーション</b> 医療者のコミュニケーション教育	北村聖 (東京大学医学教育国際協力研究センター)
	5月20日(火) 13:00-14:30	<b>I. 医療コミュニケーション学総論</b> ソーシャルマーケティング入門	木内貴弘
	5月20日(火) 14:50-16:20	<b>III. メディア・コミュニケーション</b> エンターテインメント・エデュケーション	石川ひろの

	<table border="1"> <tr> <td>5月27日(火) 13:00-14:30</td> <td>Ⅲ. メディア・コミュニケーション 新聞</td> <td>阿部文彦 (読売新聞)</td> </tr> <tr> <td>5月27日(火) 14:50-16:20</td> <td>Ⅲ. メディア・コミュニケーション テレビ</td> <td>市川衛 (NHK)</td> </tr> <tr> <td>5月28日(水) 13:00-14:30</td> <td>Ⅲ. メディア・コミュニケーション インターネット</td> <td>木内貴弘</td> </tr> <tr> <td>5月28日(水) 14:50-16:20</td> <td>Ⅲ. メディア・コミュニケーション ヘルスキャンペーン</td> <td>岩藤重人 (AC ジャパン)</td> </tr> </table>	5月27日(火) 13:00-14:30	Ⅲ. メディア・コミュニケーション 新聞	阿部文彦 (読売新聞)	5月27日(火) 14:50-16:20	Ⅲ. メディア・コミュニケーション テレビ	市川衛 (NHK)	5月28日(水) 13:00-14:30	Ⅲ. メディア・コミュニケーション インターネット	木内貴弘	5月28日(水) 14:50-16:20	Ⅲ. メディア・コミュニケーション ヘルスキャンペーン	岩藤重人 (AC ジャパン)
5月27日(火) 13:00-14:30	Ⅲ. メディア・コミュニケーション 新聞	阿部文彦 (読売新聞)											
5月27日(火) 14:50-16:20	Ⅲ. メディア・コミュニケーション テレビ	市川衛 (NHK)											
5月28日(水) 13:00-14:30	Ⅲ. メディア・コミュニケーション インターネット	木内貴弘											
5月28日(水) 14:50-16:20	Ⅲ. メディア・コミュニケーション ヘルスキャンペーン	岩藤重人 (AC ジャパン)											
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 4<sup>th</sup> ed. Oxford University Press. 2013</li> <li>• Peter G. Northouse &amp; Laurel L. Northouse 著. 萩原明人 訳. ヘルス・コミュニケーション 改訂版. 九州大学出版会. 2010</li> <li>• Debra L. Roter &amp; Judith A. Hall 著. 石川ひろの、武田裕子 訳. 患者と医師のコミュニケーション—より良い関係作りの科学的根拠. 篠原出版新社. 2007</li> <li>• 藤崎和彦、橋本英樹 著. 医療コミュニケーション研究会 編. 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010</li> </ul>												
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。												
他の授業との関連	医療コミュニケーション学は、公衆衛生学・医学・医療のあらゆる分野と関係しているが、健康社会学、健康教育学、健康増進科学、医療安全管理学との関係が深い。												

科 目 名	医療コミュニケーション学演習 [科目番号：41418122]		
学 期	夏学期(後半)	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜3-4限		
場 所	医学部・教育研究棟13階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘 石川ひろの		
授 業 の 目 的	医療コミュニケーションの実践に必要な演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践法に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場(医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等)でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。</li> <li>演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	月日	内 容	担 当
	6/4 13:00-16:20	<b>I. 対人コミュニケーション演習</b> 接遇演習	佐藤憂子 (東京歯科大学)
	6/11 13:00-16:20	<b>II. メディアコミュニケーション演習</b> インターネットコミュニケーション演習(1) <b>注意：ノートPC必要</b>	木内貴弘 石川ひろの
	6/18 13:00-16:20	<b>I. 対人コミュニケーション演習</b> MBTIに基づくコミュニケーション演習(1)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	6/25 13:00-16:20	<b>I. 対人コミュニケーション演習</b> MBTIに基づくコミュニケーション演習(2)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	7/2 13:00-16:20	<b>I. 対人コミュニケーション演習</b> MBTIに基づくコミュニケーション演習(3)	園田由紀 (日本MBTI協会)
	7/9 13:00-16:20	<b>I. 対人コミュニケーション演習</b> コーチング演習	田口智博 (三重大学)
	7/16 13:00-16:20	<b>II. メディアコミュニケーション演習</b> マス・コミュニケーション演習 <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事の執筆と評価(記者会見演習)</li> <li>既存の新聞記事の評価・分析</li> </ul> <b>注意：ノートPC必要</b>	木内貴弘 石川ひろの
	7/23 13:00-16:20	<b>II. メディアコミュニケーション演習</b> インターネットコミュニケーション演習(2) <b>注意：ノートPC必要</b>	木内貴弘 石川ひろの
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>田近秀敏：[実践]ビジネス・コーチング—プロフェッショナル・コーチの道具箱、PHP研究所、2003</li> <li>園田由紀(訳)：MBTIへの招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002</li> <li>梅田望夫：ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる、ちくま新書、2006</li> </ul>		
成績評価の方法	演習への参加(40%)、演習内でのプレゼンテーション(30%)、作成した資料(30%)によって評価する。やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出れば、別途レポートの提出に代える場合がある。		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましいが、「医療コミュニケーション学」講義の知識は前提としない。		

科 目 名	医療技術評価学演習 [科目番号：41418124]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	集中 (3日間) 9/1 (月) ~9/3 (水) 5コマ×3日		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永秀生 福田敬 (国立保健医療科学院) 白岩健 (国立保健医療科学院) 五十嵐中 (薬学系研究科)		
授 業 の 目 的	医療経済評価及びアウトカム評価の実践能力を身に付けるために、具体的な医療技術や薬剤を事例として取り上げ、グループ毎に評価研究のステップに従って、課題の設定、決定樹やマルコフモデルの作成、臨床結果及びコスト情報の収集、費用対効果の算出、感度分析などの一連の経済評価手法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	各回、演習用マテリアルを配布し、各自解答を試みた後、グループ毎で検討する。グループ毎の結果を持ち寄って発表した後、全体で討論する。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	DAY1 1) 医療経済評価の概要 1 DAY1 2) 医療経済評価の概要 2 DAY1 3) コストの算出方法と課題 DAY1 4) 効用値の測定方法 1 DAY1 5) 効用値の測定方法 2 DAY2 6) メタアナリシス 1 DAY2 7) メタアナリシス 2 DAY2 8) モデルを用いた経済評価 1 DAY2 9) モデルを用いた経済評価 2 DAY2 10) モデルを用いた経済評価 3 DAY3 11) 経済評価論文の批判的吟味 1 DAY3 12) 経済評価論文の批判的吟味 2 DAY3 13) 経済評価ガイドラインと経済評価データベース DAY3 14) 医療経済評価の活用 1 DAY3 15) 医療経済評価の活用 2		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。各回に演習用のマテリアルを配布する。 参考書は以下の通り。 ・「やさしく学ぶ薬剤経済学」、じほう 2003 ・「講座医療経済・政策学第4巻 医療技術・医薬品」、勁草書房 2005 ・「保健医療の経済的評価」、じほう 2003 ・「医療の経済評価」、医学書院 1999		
成績評価の方法	出席及び演習への参加状況(50%)、提出課題の評価(50%)により評価する。		
他の授業との関連	「保健医療経済学」、「臨床疫学」の各講義と関連する。		

科目名	医療経営学演習 [科目番号：41418125]		
学期	冬学期通期	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜・4～5時限 (15週)		
場所	医学部・教育研究棟13階SPH講義室		
担当教員	橋本英樹、康永秀生、小池創一（医療経営政策学寄付講座・特任教授）、大江和彦 【協力】尾形裕也（東京大学政策ビジョン研究センター・特任教授）、西田在賢（静岡県立大学・教授）、渋谷明隆（北里大学医学部医療安全・管理学研究部門・教授）、中尾博之（医学部附属病院災害医療マネジメント部・准教授）、井出博生（千葉大学医学部附属病院高齢社会医療政策研究部・客員准教授）、原田賢治（東京農工大学保健管理センター・准教授）、古井祐司（東京大学政策ビジョン研究センター・特任助教）、小西竜太（関東労災病院・経営戦略室長）、磯野敏和（千葉大学園芸学部・事務長）、松原由美（明治安田生活福祉研究所・主席研究員）、福吉潤（株式会社キャンサーズキャン・代表取締役社長）		
授業の目的	本演習は、医療システム・マネジメントに関する初歩的理解を深めることを目標とする。まず、システム・マネジメントにおけるコア概念（財務・管理会計、組織・人材論、戦略論、安全管理、情報管理、メディア対策）について、基礎知識を系統講義で確認する。さらに、演習やケース・メソッドを通じたディスカッションにより、基礎知識を実践知化することを目指す。 本演習では、個別の医療経営技術や病院経営上のトピックスを扱わない。受講の条件として、医療機関への勤務経験は必須ではない。非営利組織のマネジメントに興味と関心を持ち、社会保障制度について理解を深め、将来的に多職種の実務者や利害関係のある集団とのコミュニケーションや共同意思決定を担っていく医療システム・マネージャーとしてのキャリアを指向する受講生の参加を期待する。		
授業の方法	講義、演習およびケース・メソッドを通じたディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	週(日付)	4限 (14:50-16:20)	5限 (16:40-18:10)
	1(10/1)	ガイダンス (橋本、康永) 医療制度論1 (康永)	医療経営と制度・基礎編 (尾形)
	2(10/8)	医療制度論2 (康永)	医療経営学特別講義 (西田)
	3(10/15)	【演習】財務・管理会計 (井出、康永)	
	4(10/22)	ファイナンス・資金調達論 (松原)	組織・人材論 (井出、康永)
	5(10/29)	【ケース・メソッド】意思決定会計 (松原、橋本)	
	6(11/5)	(公衆衛生学会のため休講)	
	7(11/12)	戦略論総論 (橋本)	健康づくりと保険者機能 (古井)
	8(11/19)	【ケース・メソッド】戦略論 (橋本、康永)	
	9(11/26)	医療情報管理総論 (大江)	医療情報管理各論 (小西)
	10(12/3)	【ケース・メソッド】医療情報管理 (小西、康永)	
	11(12/10)	医療安全管理総論 (原田)	医療安全と経営 (小池)
	12(12/17)	【ケース・メソッド】医療安全管理と組織文化 (小池、康永)	
	13(1/7)	【演習】メディア対策 (磯野、橋本)	
	14(1/14)	災害時の危機管理 (中尾)	がん検診とマーケティング (福吉)
	15(1/21)	マネジメントをなぜ学ぶか (渋谷)	医療経営と制度・応用編 (尾形)
16(1/28)	地域包括システム (TBA)	包括討論と評価 (橋本、康永)	
教科書・参考書等	配布資料		
成績評価の方法	出席 20%、ディスカッションの発言 30%、提出課題の評価 50%		
他の授業との関連	「保健医療経済学」、「医療情報システム学」「健康危機管理学」などに関連する		



科目名	臨床医学概論 [科目番号：41418126]		
学期	夏学期前半	単位数	1
曜日・授業時間帯	木曜日・2限(8週)		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻(SPH)講義室		
担当教員	康永秀生		
授業の目的	非医師の学生向け。 医学部医学科の初歩レベルの臨床医学に関する知識のエッセンスを学ぶ。		
授業の方法	系統講義を通して、解剖・生理、診断・治療の要点を学ぶ。 第2回以降、授業時間の冒頭に前回講義の理解を問う小テストを実施。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. 循環器(4/10) 2. 呼吸器(4/17) 3. 脳神経(4/24) 4. 消化器(5/1) 5. 腎・泌尿器、生殖器(5/8) 6. 感覚器、運動器(5/15) 7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー、血液(5/22) 8. 感染症、中毒(5/29) ※講義の順番は変更することあり		
教科書・参考書等	毎回、テーマ毎に資料が配布される		
成績評価の方法	小テスト50%、出席50%で評価		
他の授業との関連	夏学期前半の「疫学研究と実践」、冬学期の「医学研究のデザイン」と関連する。 夏学期後半の「臨床疫学」講義、冬学期の「臨床疫学・経済学演習」とは強く関連する。 <u>非医師の学生で夏学期後半の「臨床疫学」講義の履修を希望する者は、本講義の履修を強く推奨する。</u>		

科目名	医学研究と CDISC 標準 [科目番号：41418127]		
学期	冬学期（前半）	単位数	1 単位
曜日・授業時間帯	水曜日・3 限		
場所	医学部・教育研究棟 13 階講義室		
担当教員	木内貴弘、石川ひろの		
授業の目的	<p>治験のデータ交換の国際標準として、日米欧の規制当局（日本では PMDA）が製薬会社等に新薬許可申請データの仕様として義務付けを決めた CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)標準について講義を行う。CDISC 標準は、電子申請だけでなく治験データ及びメタデータの医療機関等からの電子的な収集、交換、アーカイブ化等のあらゆる場面で活用が可能である。今後、治験用に開発されたパッケージソフトウェア、ツール等が、アカデミックな臨床研究・疫学研究・社会調査等にもそのまま活用されることは確実である。このため、CDISC 標準の関する知識（CDISC 標準による標準変数名、標準変数型、標準変数格納ファイル名等を含む）は臨床医学・公衆衛生学の研究において将来必須のものとなる。</p>		
授業の方法	<p>初回に全体の総論、2 回目以降に各論について、スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	日時	内容	担当
	10 月 1 日(水) 13:00-14:30	<b>I. CDISC 標準概論</b> CDISC 標準とは	木内貴弘
	10 月 8 日(水) 13:00-14:30	<b>II. CDISC SDTM</b> 新薬承認申請用データモデル SDTM (その 1)	千葉吉輝 (株式会社 ChibaPlanningOffice)
	10 月 15 日(水) 13:00-14:30	<b>III. CDISC SDTM</b> 新薬承認申請用データモデル SDTM (その 2)	千葉吉輝 (株式会社 ChibaPlanningOffice)
	10 月 22 日(水) 13:00-14:30	<b>IV. CDISC SEND</b> CDISC 標準の非臨床データモデル SNED	藤村義則 (富士通株式会社)
	10 月 29 日(水) 13:00-14:30	<b>V. CDISC ODM</b> オペレーショナルデータモデル (ODM)	千葉吉輝 (株式会社 ChibaPlanningOffice)
	11 月 5 日(水) 13:00-14:30	<b>VI. CDISC CDASH</b> EDC 向けデータ収集用変数仕様 CDASH	山口裕志 (グラクソ・スミ スクライン株式 会社)
	11 月 12 日(水) 13:00-14:30	<b>VII. CDISC ADaM</b> 統計解析用データセット ADaM	大津洋 (順天堂大学大学 院 助教)
	11 月 19 日(水) 13:00-14:30	<b>VIII. CDSIC 標準による電子申請</b> 日本における新薬承認申請の現状と展望	安藤由紀 (医薬品医療機 器総合機構)
教科書・参考書等	<p>教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ (<a href="http://www.cdisc.org">http://www.cdisc.org</a>) を必要に応じ、参照すること。</p>		

成績評価の方法	出席(50%)及びレポート(50%)により総合的に評価する。
他の授業との関連	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係を有し、共に受講することが望ましい。

科目名	精神保健学 I [科目番号：41418211]		
学期	夏学期	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜日・5限(16:40-18:10)		
場所	医学部・教育研究棟 13階公共健康医学専攻講義室		
担当教員	川上憲人、非常勤講師		
授業の目的	精神保健の実態およびニーズを把握し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を知り、地域における対策の進め方について事例（ケーススタディ）を通じて学ぶことで、実践的な能力も身につけることを目的とする。		
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義、あるいは学生がテーマに関して発表しこれに担当教員が補足を行い、全員で討論（ディベート）する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/8 1) オリエンテーション、総論 4/15 2) 精神疾患の疫学（頻度と危険因子） 4/22 3) 精神健康の測定とスクリーニング 5/13 4) 精神保健とサービス利用 5/20 5) 精神疾患の予防 5/27 6) 課題発表1：精神保健の科学的根拠（その1） 6/3 7) 課題発表1：精神保健の科学的根拠（その2） 6/10 8) トピックス①：うつ・自殺対策（国および自治体の対策） 6/17 9) トピックス②：職場のメンタルヘルス 6/24 10) トピックス③：精神保健行政の現状と課題 7/1 11) トピックス④：精神障がいからのリカバリー 7/8 12) トピックス⑥：国際精神保健 7/15 13) トピックス⑤：災害時の精神保健 7/22 14) 課題発表2：精神保健の対策を立案する（5，6限）※ ※最終回のみ授業時間が16:40-20:00となるので注意すること。		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席(25%)、課題発表(25%)およびレポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連	職場における精神保健対策について学ぶ「精神保健学特論Ⅱ」と関連する。		

科目名	精神保健学Ⅱ [科目番号：41418212]		
学期	冬学期	単位数	2
曜日・授業時間帯	火曜日・5限(16:40-18:10)		
場所	医学部・教育研究棟13階 公共健康医学専攻講義室		
担当教員	島津明人、川上憲人、非常勤講師		
授業の目的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。		
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究(ケーススタディ) 担当教員(または非常勤講師)による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/7 コース概要, 産業精神保健総論 10/14 外部EAPによるメンタルヘルス支援 10/21 外部のメンタルヘルスサービス機関をどのように選定するか? 10/28 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 11/4 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 11/11 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 11/18 職場のいじめとメンタルヘルス 11/25 腰痛とメンタルヘルス 12/2 海外勤務者のメンタルヘルス支援 12/9 経営と産業保健は協調できるか? 12/16 労働者の復職支援プログラム 1/6 中小規模事業所のメンタルヘルス対策 1/13 人事からみたメンタルヘルス対策 1/20 これからの職場のメンタルヘルス		
教科書・参考書等	毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席(30%)、レポート(70%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科目名	健康教育学 [科目番号：41418213]		
学期	冬学期後半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	金曜 1～2 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	橋本英樹、岩永俊博 (ヘルスプロモーション研究センター)、岡田加奈子 (千葉大学)、戸津崎貴文 (みずほ銀行)		
授業の目的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。		
授業の方法	講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/28 1)1 限 Micro-meso level of behavioral theories I 11/28 2)2 限 Micro-meso level of behavioral theories II 12/5 3)1 限 Population level of behavioral theories I 12/5 4)2 限 Population level of behavioral theories II 12/12 5)1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/12 6)2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/19 7)1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/19 8)2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/9 休講 (SPH 課題発表会) 1/16 9)1 限 Health education at school: Case method I (岡田) 1/16 10)2 限 Health education at school; Case method II (岡田) 1/23 11)1 限 Health literacy 1/23 12)2 限 Decision making and negotiation 1/30 13)1 限 Wrap-up and discussion 1/30 14)2 限 Written exam		
教科書・参考書等	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education; Theory, Research and Pracdtice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008 畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学 —健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第2版 :他、適宜配布		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言 (40%) ・ 課題およびレポート (60%)		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」「健康増進科学」「社会と健康 I」などと関連する		

科目名	健康社会学 [科目番号：41418214]		
学期	冬学期前半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	金曜 1～2 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	橋本英樹、杉澤秀博 (桜美林大学)、朝倉隆司 (学芸大学)、中山和弘 (聖路加看護大学)		
授業の目的	社会学の基本として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。学部と異なり、理論を中心に進める。		
授業の方法	講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/3 1)1限 Perspective of sociology 10/3 2)2限 Perspective of "Health/medical sociology" 10/10 3)1限 Medicine as social system 10/10 4)2限 Medicine as power politics 10/17 5)1限 The social world of doctor 10/17 6)2限 The social world of patient 10/24 休講 10/31 7)1限 Culture and health (朝倉) 10/31 8)2限 Social support/network and health (杉澤) 11/7 9)1限 Social pattern of health I (橋本) 11/7 10)2限 Social pattern of health II (橋本) 11/14 11)1限 Lay epidemiology, illness behavior, and sociology of health promotion (橋本) 11/14 12)2限 Alternative and holistic medicine (中山) 11/21 13)1限 Sociology of body and emotion; wrap up (橋本) 2限は予備		
教科書・参考書等	Lupton D. Medicine as culture; illness, disease, and the body. 2 <sup>nd</sup> eds. SAGE, 2003 他、適宜配布		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連	「社会と健康 I」「精神保健学」「医療倫理学」などに関連する		

科 目 名	健康増進科学 [科目番号：41418217]		
学 期	夏学期後半	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4時限(8週)		
場 所	医学部・教育研究棟13階SPH講義室		
担 当 教 員	李 廷秀		
授 業 の 目 的	<p>健康増進科学の基本的な考え方と健康増進活動の実践について、歴史的背景と最新の動向から体系的に理解することを目的とする。</p> <p>健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容と、これらの行動と関連する社会的・地域における生活環境の観点から習得する。</p> <p>具体的には、健康関連問題に関する種々の情報を収集・分析・アセスメントし、その結果から適切な健康関連課題及び対策の設定ならびにプログラムとしての集団アプローチと個別アプローチを立案・実施・評価する能力を養う。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回1テーマの講義と少人数討論(ディベート)</li> <li>講義の際に資料を配付する</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	予定日	各回のテーマ	
	6月3日	概論ーそのⅠ(健康増進科学とは)	
		概論ーそのⅡ(歴史と理論的背景)	
	6月10日	健康問題のアセスメントと課題設定(循環器疾患)	
		健康問題のアセスメントと課題設定(循環器疾患危険因子)	
	6月17日	健康問題のアセスメントと課題設定(悪性新生物)	
		健康問題のアセスメントと課題設定(悪性新生物の危険因子)	
	6月24日	生活行動のアセスメントと対策(身体活動・運動)	
		生活環境のアセスメントと対策(生活環境)	
	7月1日	生活行動のアセスメントと対策(栄養・食生活)	
		生活環境のアセスメントと対策(食環境)	
	7月8日	介入プログラムの立案(行動変容理論)	
		介入プログラムの実施・評価(行動変容理論の適用)	
	7月15日	高齢者の健康増進科学ーエビデンスと施策評価ー	
		介護予防施策の現状・課題・新しい根拠にもとづく提言	
	7月22日	介入プログラムの実施の実際(肥満・代謝性疾患)	
		介入プログラムの実施の評価(肥満・代謝性疾患)	
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民衛生の動向(厚生統計協会、厚生指標臨時増刊)</li> <li>予防医学のストラテジー(医学書院)</li> <li>ヘルスプロモーション(医学書院)</li> <li>実践ヘルスプロモーション(医学書院)</li> <li>健康行動と健康教育(医学書院)</li> <li>国保ヘルスアップモデル事業個別健康支援プログラム実施マニュアル(厚生労働省)</li> <li>標準的な健診・保健指導に関するプログラム(厚生労働省)</li> <li>健康日本21、健康日本21(第二次)報告書(厚生労働省)</li> <li>国民健康栄養調査報告書(厚生労働省)</li> </ul>		
成績評価の方法	授業毎のレポート(50%)に出席状況(50%)を加味する		
他の授業との関連			



科目番号	41418218	授業科目名	医療倫理学 I		
学 期	夏学期前半	曜 日	木曜	時 限	5～6 時限
担 当 教 員	瀧本 禎之				
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室				
授業開始日	2014年4月10日(木曜日)				
授業の目的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論(ディベート)を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。				
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。				
授 業 日 程	<p>4月10日 (1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1</p> <p>4月17日 (2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念</p> <p>4月24日 (3) 臨床症例の倫理的検討法</p> <p>5月1日 (4) ケアの倫理 / 生殖補助医療</p> <p>5月8日 (5) ICの法理 / 終末期医療</p> <p>5月15日 (6) 守秘義務 / 研究倫理</p> <p>5月22日 (7) 模擬倫理委員会</p>				
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』勁草書房</li> <li>・ Jonsen, A.R. et al.著(赤林、蔵田、児玉監訳)『第5版臨床倫理学——臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版</li> <li>・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院</li> <li>・ Hope, T.著(児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』岩波書店</li> </ul>				
成績評価	出席(30%)、及び最終レポート(70%)により評価する。				
そ の 他	「医療倫理学 II」受講の基礎となる内容である。				

科目番号	41418219	授業科目名	医療倫理学 II
学 期	夏学期後半	曜 日	木曜
時 限	5～6 時限		
担当教員	瀧本 禎之		
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室		
授業開始日	2014年6月5日(木曜日)		
授業の目的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの2つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論(ディベート)を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業日程	6月5日 (1) 公衆衛生倫理入門 6月12日 (2) 公衆衛生・政治哲学 6月19日 (3) 研究者の倫理と不正 / 医療における意思決定 6月26日 (4) 倫理コンサルテーション I 7月3日 (5) 資源配分と新型インフルエンザ 7月10日 (6) 健康格差と正義 7月17日 (7) 倫理コンサルテーション II		
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』 勁草書房</li> <li>・ Jonsen, A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第5版臨床倫理学——臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版</li> <li>・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』 医学書院</li> <li>・ Hope, T. 著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店</li> </ul>		
成績評価	出席(30%)、及び最終レポート(70%)により評価する。		
その他	医療倫理学 I の内容を前提とする。		

科目名	社会と健康Ⅰ [科目番号：41418220]		
学期	冬学期前半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜 1～2 時限 (8 週)		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤尚己・橋本英樹・川上憲人・外部講師：児玉聡・堤明純・本庄かおり・藤原武男		
授業の目的	健康に影響を与える社会的な要因 (Social Determinants of Health: SDH) について、社会疫学の理論と実証研究の到達点について学ぶ。また、関連する計量分析技術のうち公衆衛生全般に広く応用可能なものを紹介する。		
授業の方法	講義・事前配布資料・レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 社会疫学概論 (近藤) 10/ 2 1 限 2) 個人と社会の関係 (橋本) 10/ 2 2 限 3) 社会経済状況 (近藤) 10/9 1 限 4) 景気動向・所得格差 (近藤) 10/9 2 限 5) 社会的ネットワーク (近藤) 10/16 1 限 6) ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/16 2 限 7) 社会疫学の技法Ⅰ：マルチレベル分析 (近藤) 10/23 1 限 8) 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 10/23 2 限 9) 差別 (川上) 10/30 1 限 10) 職業階層・職業性ストレスと健康 (堤) 10/30 2 限 11) 社会疫学の技法Ⅱ：シミュレーション技術の応用 (近藤・Chao) 11/6 1 限 12) 社会疫学の技法Ⅲ：DAG と反事実モデル (近藤) 11/13 1 限 13) ジェンダー格差 (本庄) 11/13 2 限 14) 健康の平等と倫理 (児玉) 11/20 1 限 15) レビューセッション (近藤) 11/20 2 限		
教科書・参考書等	「社会格差と健康：社会疫学からのアプローチ」川上憲人ほか 「予防医学のストラテジー」ジェフリー・ローズ 「ソーシャル・キャピタルと健康」イチロー・カワチほか 「保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ」藤野ほか		
成績評価の方法	出席態度(40%)・レポート(60%)		
他の授業との関連	社会と健康Ⅱ・健康教育学・健康社会学・精神保健学・医療倫理学など		

科目名	社会と健康Ⅱ [科目番号：41418221]		
学期	冬学期後半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	金曜日 3～4 時限 (8 週)		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤尚己・外部講師：石川善樹・高木大資・藤野善久		
授業の目的	社会環境要因にアプローチする健康増進・健康格差対策の理論・実践例・課題点について発表演習形式で学ぶ。受講者自ら調べて皆で議論する。発表後には関連事項の解説や最新の動向に関するレクチャーを行い理解を深める。また、健康の社会的決定要因に関連する最新の話題や手法について専門家の講義を加える。		
授業の方法	講義・レポート・課題発表・討論		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) オリエンテーション 11/28 3 限 2) 社会要因への介入ストラテジー概論 11/28 4 限  3) ポピュレーションアプローチによる健康格差対策 12/5 3 限 4) ヘルスコミュニケーションによる健康格差対策 (石川) 12/ 5 4 限  5) 課題発表 1 12/12 3 限 6) 健康影響評価の概念と進め方 12/12 4 限  7) 健康影響評価(HIA)演習 (藤野) 12/19 3 限 8) 健康影響評価(HIA)演習 (藤野) 12/19 4 限  9) 課題発表 2 1/9 3 限 10) 健康格差指標とそのモニタリング手法 1/9 4 限  11) 課題発表 3 1/16 3 限 12) トピック：空間分析による地域社会と健康研究：(高木) 1/16 4 限  13) 課題発表 4 1/23 3 限 14) (予備日) 1/23 4 限  15) 課題発表 5 1/30 3 限 16) レビューセッション 1/30 4 限		
教科書・参考書等	適宜配布		
成績評価の方法	出席態度(30%)・レポート(40%)・課題発表 (30%)		
他の授業との関連	「社会と健康Ⅰ」に出席することが望ましい。健康教育学・健康社会学・医療コミュニケーション学などに関連する。		

科目名	産業保健の理論と実践 [科目番号：41418222]		
学期	冬学期前半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜日・1－2限		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	川上 憲人 (精神保健学分野) 大久保靖司 (環境安全本部)		
授業の目的	<p>産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための実践的技術の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析、職場巡視及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、講義の初回にグループ分けを行い、各グループが教員指導下で課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得することができる。</p> <p>本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第1回の産業保健関連法制度や産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。</p>		
授業の方法	担当教員および外部講師によるその時点におけるトピックスに関する講義 事例検討等による実践的学習 Project Based Learning による演習 東京大学を現場として活用した演習		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/1 第1回 産業保健関連法制度 (大久保靖司) 産業保健総論 (課題提示) (大久保靖司) 10/8 第2回 産業保健の動向と国際的広がり (小木和孝) 産業保健と雇用 (矢野栄二 帝京大学) 10/15 第3回 産業保健のマネジメント (森晃爾 産業医科大学) 産業保健におけるリスク管理 (甲田茂樹 労働安全衛生総合研究所) 10/22 第4回 産業保健と倫理 (杉森裕樹 大東文化大学) 産業保健と経済 (武藤孝司 獨協医科大学) 10/29 第5回 演習：産業保健の事例分析Ⅰ (大久保靖司) 産業保健の事例分析Ⅱ (大久保靖司) 11/5 第6回 演習：産業保健の計画と評価 (川上憲人) 演習：職場巡視 (大久保靖司) 11/12 第7回 演習：参加型職場環境改善Ⅰ (吉川徹 労働科学研究所) 参加型職場環境改善Ⅱ (吉川徹 労働科学研究所) 11/19 第8回 演習：課題発表		
教科書・参考書等	特に指定しない		
成績評価の方法	出席(25%)、毎回の小レポート(25%)、課題発表及びレポート(50%)		
他の授業との関連	衛生学、公衆衛生学、精神保健学Ⅱ、健康危機管理学、医療安全管理学、環境健康医学と関連する。		

科 目 名	健康医療政策学 [科目番号：41318311]		
学 期	冬学期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	月曜5時限		
場 所	医学部・教育研究棟13階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	小林廉毅、豊川智之 東 尚弘（国立がん研究センター）、 馬場園 明（九州大学医療経営・管理学）		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、診療報酬、医療の質など、種々の健康・医療に関わる問題の背景並びに政策の立案・実施、評価、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法規・制度、費用負担のあり方などを学習するとともに、事例（ケース）を通じて実際を理解する。		
授 業 の 方 法	講義及び事例研究（ケーススタディ）、討論（ディベート）などによる。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	①10/6 エビデンス（科学的根拠）と健康医療政策（小林） ②10/20 健康政策としての健診・検診（小林） ③10/27 日本の医療政策（小林） ④11/10 なぜ米国は国民皆保険でないのかー比較医療制度論（小林） ⑤11/17 レセプトオンライン化に至る政策決定過程（外部講師 岡本先生）（小林） ⑥12/1 診療報酬による政策誘導（外部講師 未定）（小林） ⑦12/8 医療の質一定義、評価、利用（東） ⑧12/15 政策提言の策定における課題（東） ⑨12/22 （4時限 14:50-16:20）特別講義（馬場園講師） ⑩ ” （5時限 16:40-18:10） ” （ ” ） ⑪ 1/5 日本における医療政策決定過程（外部講師 前村先生）（豊川） ⑫ 1/19 なぜ我が国ではがん検診が成果を挙げていないのか （外部講師 斎藤先生）（豊川） ⑬ 1/26 （4時限 14:50-16:20）特別講義（TBA） ⑭ 1/26 （5時限 16:40-18:10）試験		
教科書・参考書等	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
成績評価の方法	出席（約40%）、小レポート（約10%）、筆記試験（約50%）に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」「保健医療経済学」と関連する。		

科 目 名	医療情報システム学 [科目番号：41418312]		
学 期	夏学期前半	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	金曜・3～4時限 (詳細日程は初回に説明)		
場 所	医学部・教育研究棟 SPH 講義室		
担 当 教 員	教授：大江和彦 他		
授 業 の 目 的	現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトなどの医療情報データベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性についても理解する。		
授 業 の 方 法	医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマを順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義し、議論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>2014年4月18日(初回)に全体の授業計画を説明する。全体は8回16コマ(途中で実施する小試験、最終回の議論、試験を含む)からなる。外部講師の都合や理解度の進捗などにより、各回のテーマを入れ替えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4月18日 国内外の医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要</li> <li>2) 4月25日 病院情報システム、電子カルテシステム、医療情報の標準化</li> <li>3) 5月2日 医療パーソナルデータの安全管理と情報ネットワーク技術</li> <li>4) 5月9日 医療情報データベース-ナショナルDBとセンチネルDB</li> <li>5) 5月16日 モバイルIT医療、生活習慣病マネジメントとIT</li> <li>6) 5月30日 医療における知識と情報の取扱い、言語処理、</li> <li>7) 6月13日 オープンデータの取扱い</li> <li>8) 6月20日 全体俯瞰および試験</li> </ol> <p>※5/23、6/6 は学会等のため開講しない</p>		
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社)</li> <li>・ 医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社)</li> <li>・ 内閣官房 IT 総合戦略本部ホームページ <a href="http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/">http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/</a></li> </ul>		
成績評価の方法	出席率30%、討論20%、レポート(含試験)点数50%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連	<p>保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。</p> <p>公共健康情報学：健康をとりまく種々の公共情動的側面を知るうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。</p> <p>臨床疫学：医療情報システムから収集される大規模データの解析の実例や手法を学ぶ上で関連が深い。</p>		

科 目 名	医療情報システム学実習 [科目番号：41418313]		
学 期	冬学期・前半	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	火曜・1～2時限（詳細日程は初回に説明）		
場 所	医学部・教育研究棟 SPH 講義室		
担 当 教 員	教授：大江和彦 他		
授 業 の 目 的	医療データベースを構築し、データの標準化の実際、データベースの操作手法・管理方法・データ管理におけるセキュリティー技術を身につける。また大規模な医療データベースシステムの管理を東大病院の情報システムを題材として学ぶ。		
授 業 の 方 法	電子カルテとレセプトのサンプルデータを用いて、臨床データベースの設計、データの作成、標準化コードへの変換、データの暗号化などを行い実際にデータベースを作成し、そのデータベースを使って検索・データ抽出しする一連の過程を実習する。Windows パソコンのごく基本的な操作（ファイルのコピー、削除、Word と Excel の基本的な操作）は出来ることが条件。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	<p>以下の7項目について全体の進捗をみながら各項目に2～3コマかけて実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) データ作成・変換・インターネットの基本技術実習</li> <li>2) データベース設計とデータベース操作：医療サンプルデータをもとに、リレーショナルデータベースの一連の基本操作を学ぶ。他のソフトウェアとデータベースとのデータ相互変換の基本的な技術を習得する。</li> <li>3) データの標準化コードへの変換を学ぶ。</li> <li>4) データの暗号化手法と暗号化通信について実習し、公開鍵暗号化方式を理解するための実習を行う。</li> <li>5) データベースを作成し、与えられた臨床研究課題などに適合するデータの抽出、変換を行い、研究に必要なデータを作成する。</li> <li>7) 東大病院の医療情報システムを見学、実体験し、大規模な情報システムにおけるデータ管理のシステム管理とデータ抽出作業例を学び、総合討論を行う。</li> </ol> <p>日程は以下の8回：(1)10月7日、(2)10月14日、(3)10月21日、(4)10月28日、(5)11月4日、(6)11月11日、(7)11月25日、(8)12月2日</p>		
教科書・参考書等	医療情報システム実習手引書及び関連資料を実習時に配布する。 パソコンは当方で1人1台用意する。		
成績評価の方法	各テーマの実習態度(60%)、出席状況(20%)、質疑等(20%)を総合的に評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学講義を受講していることが望ましい。		



科 目 名	医療安全管理学 [科目番号：41418318]		
学 期	夏学期前半	単 位 数	1 (90分×8回)
曜日・授業時間帯	水曜・3～4時限 (4週)		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	児玉安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回1テーマを選んで講義を行う。</li> <li>・テーマ毎に資料が配布される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p><u>第1回 (4月16日)</u></p> <p>①医療安全管理学総論：医療安全対策と医療事故紛争対応の15年の歩みを振り返り、今後の医療安全の方向性を議論する。これまでの品質管理、経営管理、政策制度構築の手法の限界と専門家と市民の対話、意思決定への参加など、大きな構造の変化を迎える中での医療の質・安全実現のための政策制度構築を検討する。</p> <p>②医療機能評価機構の取り組み：医療事故情報収集等事業と産科医療無過失補償制度の成り立ちと事業内容を学ぶ。医療安全のために収集した情報を活用するための工夫点、今後の様々な制度の展望を学ぶ。</p> <p><u>第2回 (4月23日)</u></p> <p>③専門性の相互理解と共有：大学病院の医療安全管理者の取り組み、特に薬剤関連の対策を中心に、立場や専門性の違う専門職が協働し、チームとして医療安全を確保するための方法を学ぶ。</p> <p>④病院組織における安全管理：医療機関の医療安全活動の全体像とマネジメント方法を学ぶ。特に、個人とシステム、対話（コミュニケーションとチームワーク）、患者参加（患者との対話）という3つの新しい観点に着目する。</p> <p><u>第3回 (5月7日)</u></p> <p>⑤患者からの苦情相談への対応：病院で患者からの相談・苦情を受ける体制やその対応の実態を学ぶ。医療の質向上や医療安全につなげるという観点を持ちつつ、実際の相談・苦情にどのように対応しているのか現場について学ぶ。</p> <p>⑥自治体の医療安全支援センターの取り組み：地方自治体の医療安全支援センターにおいて、第三者である医療安全支援センターが患者等からの苦情や相談に対応することで、医療機関と患者の信頼関係の構築や医療安全の向上につなげていこうとしている取り組みについて学ぶ。</p> <p><u>第4回 (5月14日)</u></p> <p>⑦事故調査委員会と報告書のあり方：「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の経験を踏まえ、医療事故の調査を行う医療安全調査委員会(仮称)の在り方とその調査結果を記す報告書の在り方について、よりよい医療を目指す上で有用なもの(医療行為の専門的な評価を行い、再発防止に役立つもの)となるようにという観点から、その議論と経緯を学ぶ。</p> <p>⑧試験</p>		
教科書・参考書等	<p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスケアリスクマネジメント 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> <li>・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> <li>・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。</li> </ul>		
成績評価の方法	出席(50%)、試験(50%)により評価する。		
他の授業との関連	本講義に関連して、医療安全管理学実習を実施する。実習の履修は、本講義を履修するための必要条件ではない。		

科目名	医療安全管理学実習 [科目番号：41418319]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	0.5 (90分×12回)
曜日・授業時間帯	9月29日、30日・1～6時限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	児玉安司		
授業の目的	<p>医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。</p> <p>本授業では、各種の医療機関で多様な医療安全対策と患者苦情対応の体制が整備されつつあることを認識し、医療安全管理活動に関する今後のあり方について考察することを目的とする。</p>		
授業の方法	東大病院や他の医療機関での聞き取り調査および観察実習とそれに基づく今後のあり方についての考察。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>2日間で下記プログラムの実習を行うものとする。</p> <p>1. <u>チームワーク・トレーニングと、医療事故の事例分析 (RCA)</u>  コミュニケーション・ツール (TeamSTEPS) についてのグループワーク  RCA の概要と実際  事例を用いた RCA グループワーク  グループ発表・総括  ※東大病院の職員 (参加希望者) とともにグループ討議を行う</p> <p>2. <u>医療機関での調査・実習</u>  病院見学とディスカッション  ・医療安全対策部門の概況・活動の見学  ・患者相談・臨床倫理部門の概況・活動の見学  ・他の医療機関の医療安全対策についての報告会</p>		
教科書・参考書等	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RCA 根本原因分析法実践マニュアル 石川雅彦 (医学書院)</li> <li>・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> <li>・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。</li> </ul>		
成績評価の方法	出席状況(50%)および実習報告書(50%)の内容で評価する。		
他の授業との関連	別に実施する医療安全管理学 (講義) を履修することが望ましい。ただし、必要条件ではない。		

科 目 名	健康危機管理学 [科目番号：41418320]		
学 期	夏学期（後半）	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	木曜・1～2時限		
場 所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	小林廉毅 富尾 淳（東京大学医学部附属病院災害医療マネジメント部講師） 岡部信彦（川崎市衛生研究所長） 中島一敏（国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官）（東北大学異動予定） 田中良明（江東区深川保健相談所長）		
授 業 の 目 的	新型インフルエンザ等アウトブレイクや大規模災害など、様々な健康危機に対応するための新興・再興感染症の現状、健康危機突発事の原因同定と対応策、リスクコミュニケーション、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。		
授 業 の 方 法	講義及び過去の典型的な事例を用いた事例研究（ケーススタディ）による。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	6/ 5（木）健康危機管理概論、新興・再興感染症（岡部講師） 公衆衛生サーベイランス（小林） 6/12（木）アウトブレイクへの対応(1)（事例検討）（中島講師、TA） " (2)（"）（中島講師、TA） 6/19（木）保健行政における健康危機管理（田中講師） 災害医療（富尾講師） 6/26（木）アウトブレイクへの対応（3）（中島講師） 試験（小林）		
教科書・参考書等	「感染症予防必携」（日本公衆衛生協会、2005年）		
成績評価の方法	出席（約50%）及び試験（約50%）に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「保健行政・健康危機管理学実習」と関連する。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習 [科目番号：41418321]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	集中（9月上旬～中旬を予定している）		
場 所	保健所、研究室等		
担 当 教 員	小林廉毅 田中良明（江東区深川保健相談所所長）		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。 （本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。）		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。		
教科書・参考書等	「衛生行政大要 改訂第23版」（日本公衆衛生協会、2012年）		
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)に基づいて評価する（合否で判定）。		
他の授業との関連	「健康危機管理学」の履修を必須とする。		

科 目 名	環境健康医学 [科目番号：41418322]		
学 期	冬学期前半	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	月曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	遠山千春		
授 業 の 目 的	<p>ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。他方、事故により、中毒量を取り込む場合もある。</p> <p>様々な有害物質による健康影響に関する歴史から今日的な問題についての講義を行う。また、健康影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる病態発生のメカニズムとその影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについての基本的な知識と考え方を教授する。</p>		
授 業 の 方 法	担当教員等による講義で、全8回の予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 10月 6日 環境・人間・生態系——健康環境科学とは？ 遠山千春 (東京大学・健康環境医工学)</p> <p>2) 10月 20日 環境汚染物質の脳機能への影響 (仮) 鯉淵 典之 先生 (群馬大学大学院医学系研究科)</p> <p>3) 10月 27日 アスベストの健康影響と環境問題 車谷典男 (奈良県立医科大学・地域健康医学)</p> <p>4) 11月 10日 ゲノム情報の予防医学への応用 -環境中化学物質への感受性の個人差- 加藤貴彦 (熊本大学 環境生命科学)</p> <p>5) 11月 17日 化学物質の代謝的活性化と不活性化：個人差の諸要因 山田 英之 先生 (九州大学・臨床薬学)</p> <p>6) 12月 1日 環境化学物質のケミカルバイオロジー 熊谷嘉人 (筑波大学・環境医学)</p> <p>7) 12月 8日 大気汚染の健康影響、特に気管支喘息について 嵯峨井 勝 (つくば健康生活研究所)</p> <p>8) 12月 15日 珪酸・アスベストの免疫影響 (仮) 大槻 剛巳 先生 (川崎医科大学・衛生学)</p>		
教科書・参考書等	適宜、指定する。		
成績評価の方法	すべての出席とレポート提出を前提として、両者をほぼ同じ比重で評価する。		
他の授業との関連			

科目名	公共健康情報学 [科目番号:41418323]		
学期	夏学期後半	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜曜・1時限目と2限目		
場所	医学部教育研究棟 13階 公共健康医学専攻(SPH)講義室		
担当教員	小山博史及び非常勤講師予定(山口直人先生、中山健夫先生、若尾文彦先生、吉田輝彦先生)		
授業の目的	公共健康医学分野における情報処理の基礎について理解すること。		
授業の方法	各回1テーマの講義を行う。テーマによって資料を事前に配布し、質疑応答を中心に講義を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>【対象】公共健康医学分野関連の情報処理について学習したい人。 (特にプログラミング能力を有する必要はありません。)</p> <p>【内容】公共健康医学分野における情報処理に関する講義を行う。</p> <p>【概要】(非常勤講師の都合で一部日程及び題目・内容の一部変更の可能性あり)</p>		
		8時40分～10時10分	10時30分～12時00分
	6月3日	社会における健康情報	健康情報の公共性
	6月10日	診療ガイドラインの社会的役割	診療ガイドラインの作成 山口直人先生
	6月17日	データベースとデータマイニング	データベース疫学とは 中山健夫先生
	6月24日	健康情報とレギュラトリエンス	医療における情報政策 厚労省参事官 鯨井佳則先生
	7月1日	がん医療における情報の役割	がん情報研究センターと政策 若尾文彦先生
	7月8日	ゲノムコホートと情報管理	がん診療と研究におけるゲノム情報の取得と取扱の現状と課題 吉田輝彦先生
	7月15日	予防接種と登録システム	地理情報システムの医療応用
	7月22日	医療における情報倫理	試験
教科書・参考書等	D.A. Ross, A.R. et al., Public Health Informatics and Information Systems. Publisher: Springer; 1 edition (October 16, 2002)		
成績評価の方法	出席(約30%)、小テスト(約30%)、期末試験(約40%)により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学や医療コミュニケーション学と関連性が深く、共に受講することが望ましい。		

科目名	公共健康情報学実習 [科目番号:41418324]		
学期	冬学期前半	単位数	1単位
曜日・授業時間帯	金曜 3-4 時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室予定		
担当教員	小山博史		
授業の目的	Rを用いたデータマイニングと地理空間データ処理の基本的手法の習得。		
授業の方法	Rを用いた基本的なデータマイニング手法と地理空間データ処理法を修得するため実習の手引を基にPCを用いた実習を行う。 (PCは学生所有のPC使用予定。)		
授業計画及び内容(各回のテーマ)	<p>【対象】Rを用いたデータマイニングの方法と地理空間データ処理法を学習したい人。</p> <p>【内容】Rを用いた代表的なデータマイニング手法と地理空間分析入門</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. R 入門</li> <li>2. データマイニングの基礎</li> <li>3. データマイニング(決定木)</li> <li>4. データマイニング(サポートベクターマシン)</li> <li>5. データマイニング(クラスタリング)</li> <li>6. 地理空間データ処理の基礎</li> <li>7. 地理空間分布パターン分析</li> <li>8. 地理空間相関分析</li> </ol>		
教科書・参考書等	実習の手引きを中心に行う。 Rのダウンロードサイト( <a href="http://www.r-project.org/">http://www.r-project.org/</a> )		
成績評価の方法	出席(約50%)と課題レポート(約50%)により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係が深く、共に受講することが望ましい。		

科目名	インターンシップ [科目番号：41418411]		
学期	夏期休暇期間または冬期休業期間	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	9月中の2～3週間（募集7月中旬）または3月中の2～3週間（募集1月中旬）		
場所	公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・NGO、企業の臨床試験担当部門、医療機関の情報担当部門など（下記受入先一覧参照）		
担当教員	川上憲人（専攻長）		
授業の目的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。		
授業の方法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受け入れ先（組織、下記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受け入れ先の状況に応じて、受け入れ先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。 *募集期間7月中旬および1月中旬		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。 ○受入先一覧		
	No	インターンシップ受入先及びテーマ（予定）	
	1	独立行政法人 国立健康・栄養研究所 栄養疫学に関するデータ収集および分析の援助	
	2	NPO メンタルケア協議会 ①東京都自殺相談ダイヤル相談記録から、相談者傾向の分析等。②東京都精神科救急医療情報センター相談記録から、救急医療利用の傾向変化についての分析等。※情報センター相談員研修等への臨席も可能	
	3	財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 ①認知症ケアに関する文献調査 ②医療経済評価また地域連携パスに関する研究補助	
	4	独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報・統計部 臨床研究 e-learning サイト <a href="http://www.icrweb.jp/">http://www.icrweb.jp/</a> の評価	
	5	NPO 日本臨床研究支援ユニット 乳癌検診・大腸癌検診・循環器領域などの大規模臨床試験に関連した研究管理とデータ管理の援助	
	6	バース・ビュー株式会社および特定非営利活動法人 ヘルスサービスR&Dセンター 救急医療管制支援システム（e-MATCH）設計・開発・導入等の支援業務	
	7	株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ） 保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務などについて体験する	
	8	株式会社キャンサーズキャン 市町村の保健行政（がん検診の受診率向上等）に対するコンサルティングプロジェクトを通じて、保健行政を動かすロジックづくり、担当者を説得するコミュニケーション、ビジネスとしてプロジェクトを動かすスキーム等を体験し学ぶ。	
上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。			
教科書・参考書等	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席(30%)、実習態度(30%)、インターンシップ報告書(40%)に基づいて評価する。		
他の授業との関連			



科目名	公共健康医学特論 [科目番号：41418412]		
学期	夏学期	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	月曜・4時限(13週)；補講分として5月26日4限		
場所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻(SPH)講義室		
担当教員	公共健康医学専攻 担当教員 (調整幹事 保健社会行動学分野)		
授業の目的	公共健康医学専攻の全13分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 13担当分野から、公共の観点に則したテーマを選んで講義を行う。</li> <li>・ テーマごとに資料が配布される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4月14日 インTRODクシヨン 公共健康医学の視座(橋本)</li> <li>2) 4月21日 公共健康情報学概論(小山)</li> <li>3) 4月28日 景気動向と健康(近藤)</li> <li>4) 5月12日 公衆栄養学・予防栄養学の役割と課題(佐々木)</li> <li>5) 5月19日 最近の健康増進に関わる公共政策(李)</li> <li>6) 5月26日 精神保健研究トピックス(川上・島津)</li> <li>7) 6月2日 産科医療補償制度(小林)</li> <li>8) 6月9日 保健医療におけるサイエンスコミュニケーション(石川・木内)</li> <li>9) 6月26日 環境と中毒：歴史からの教訓と健康科学の役割(遠山)</li> <li>10) 6月23日 医療倫理学概説(瀧本)</li> <li>11) 6月30日 ITによる健康医療情報の集積と流通(大江)</li> <li>12) 7月7日 大規模保健医療データベースの構築と活用(康永)</li> <li>13) 7月14日 臨床試験成績の解釈と公共への発信(松山)</li> </ol>		
教科書・参考書等	各講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回ごとに出席(50%)、講義中発言(20%)、レポート(30%)を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	他の授業のすべてと関連を有する。		

科 目 名	課題研究 [科目番号：41418511]		
学 期	通年	単 位 数	6 単位
曜日・授業時間帯	指導教員の指定する曜日・時間帯		
場 所	指導教員の指定する研究室		
担 当 教 員	各指導教員		
授 業 の 目 的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）。資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	—		
教科書・参考書等			
成績評価の方法	出席状況(50%)及び課題研究の成果（課題研究論文）(50%)で評価する。		
他の授業との関連			

## 6. 公共健康医学専攻成績評価規則

### 公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19.4.1

#### (成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

#### (成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。A+はおおむね受講者総数の10パーセントとする。

- A+ 90点以上
- A 80点以上
- B 70点以上
- C 60点以上
- F 不合格(60点未満)

#### (成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

- 2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。
- 3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

#### (成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

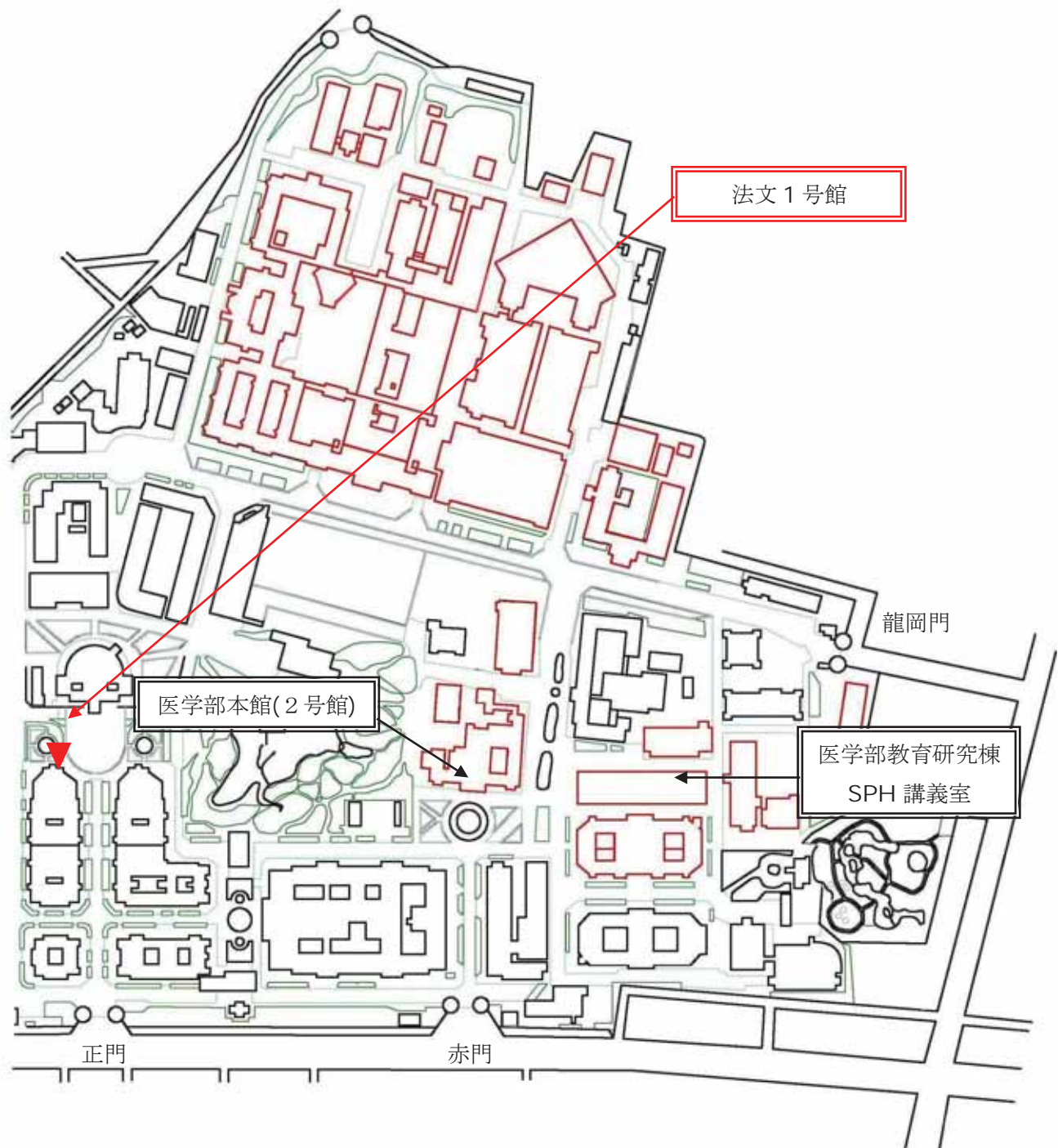
#### (筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

以上

## 7. 公共政策大学院との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単 位	学 期	曜 日	時 限	開講場所
P. 49	5121090	社会保障法政策 (嶋崎)	2	冬	木	6	法文1号館3階 19番教室
P. 50	5123090	医療政策 (井伊ほか)	2	冬	木	2	法文1号館3階 26番教室



時間割コード Course Code	5121090	使用言語 Language	日本語
授業科目名	社会保障法政策		
Course Title	Social Security Law Policy		
学期 Semester	冬 (Winter)	曜日・時限 Day/Period	木(Thu)6 [18:30-20:10]
		単位数 Credits	2
担当教員	島崎 謙治		
Faculties	SHIMAZAKI Kenji		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	<p>社会保障をめぐる法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会経済の大きな変化を背景に、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。</p> <p>この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障について、実際に政策立案に携わった経験も踏まえ、法政策とは何かという点にポイントを置き、基本的に講義形式で行う。</p> <p>具体的には、総論として、法政策とは何か、人口問題と社会保障、社会保障の国際比較、について講義した後、各論として、医療を中心に取り上げる。また、年金および社会福祉についても講義する。</p>		
授業のキーワード Keywords	社会保障法,社会保険,高齢化,医療,年金,社会福祉,		
授業計画 Schedule	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢化・経済成長と社会保障(人口構造・経済構造と社会保障)</li> <li>2. 社会保障・法・政策(社会保障と法・制度・政策の意味)</li> <li>3. 日本の社会保障制度の沿革(日本の社会保障の歴史と現状)</li> <li>4. 日本の社会保障の体系と特質(社会保障の国際比較、社会保険方式の意義)</li> <li>5. 医療保険制度1(医療保険制度の概説と政策課題)</li> <li>6. 医療保険制度2(医療保険制度体系論)</li> <li>7. 医療供給制度1(医療供給制度の基本問題と政策課題)</li> <li>8. 医療供給制度2(医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等)</li> <li>9. 介護保険制度(介護保険制度の概説と政策課題)</li> <li>10. 生活保護および福祉制度(生活保護および福祉制度の概説と政策課題)</li> <li>11. 年金制度1(公的年金制度の概説と政策課題)</li> <li>12. 年金制度2(前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題)</li> <li>13. 社会手当(児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題)</li> <li>14. 社会保障と税制(社会保障・税の一体改革等)</li> <li>15. 総括(全体のまとめ)</li> </ol>		
授業の方法 Teaching Methods	講義方式による。		
成績評価方法 Method of Evaluation	レポートによる。		
教科書 Required Textbook	島崎謙治『日本の医療－制度と政策』(東京大学出版会, 2011年) 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(第9版)』(有斐閣, 2013年)		
参考書 Reference Books			
履修上の注意 Notes on Taking the Course			

時間割コード Course Code	5123090	使用言語 Language	日本語
授業科目名	医療政策		
Course Title	Health Policy		
学期 Semester	冬 (Winter)	曜日・時限 Day/Period	木(Thu)2 [10:30-12:10] 単位数 Credits 2
担当教員	井伊 雅子 / 飯島 勝矢 / 辻 哲夫 / 埴岡 健一		
Faculties	II Masako / IJIMA Katsuya / TSUJI Tetsuo / HANIOKA Kenichi		
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	医療の進展により、われわれは健康寿命の伸長という恩恵を受けている。一方で、医療が高度化するなかで、多くの政策課題が生まれている。効率的で良質の医療サービスが提供されるために何をなすべきか。この授業では、医療政策をめぐる現代的課題を理論的・実践的に講義していく。		
授業のキーワード Keywords	[日本語用],医療,医療経済学,医療政策, [外国語用],Health care, Health economics, Health policy		
授業計画 Schedule	以下のような話題をとりあげることを予定している。医療制度とこれからの課題、市民主体の医療、地域主導の医療、地域医療と地方財政、医療の質と情報、医療・保健統計、アジアの医療健康の経済価値、保険の基礎理論、医療保険のモラル・ハザード 医師誘発需要、医療保険の逆選択、少子・高齢化と医療・介護保険財政		
授業の方法 Teaching Methods	講義形式による		
成績評価方法 Method of Evaluation	定期試験による		
教科書 Required Textbook	橋本英樹・泉田信行編『医療経済学講義』, 東京大学出版会 東京大学医療人材育成講座編『「医療政策」入門』, 医学書院		
参考書 Reference Books			
履修上の注意 Notes on Taking the Course			